

第3回市街地グランドデザイン検討委員会 4つの公共空地の利活用案を了承

市街地グランドデザイン検討委員会では、昨年9月の第2回委員会や、10月の地元意見交換会での意見を踏まえ、事務局から提示された「4つの公共空地」（旧市民病院跡地、旧市役所跡地、旧朝日丘小学校跡地、市民会館敷地）などの利活用案を12月の第3回委員会で議論しました。

公共空地の利活用の提案内容についてお知らせします。

公共空地の施設計画の考え方 ～氷見ポリシー～

将来的に行財政を圧迫しない計画、無駄を抑えつつも特色ある計画とするため、施設計画にあたって8つの考え方を重視します。

1	公共機能の複合化を図り、空間を合理化 ・さまざまな用途にシェアできる空間計画 ・単機能スペースの集合ではなく、複合機能をもたせた空間づくり	5	四季を通じて使え雨天時や冬場でも賑わう施設計画 ・雁木や屋根付広場など屋内外の中間スペースを導入 ・雨や雪を利用して楽しむ工夫など
2	時代変化に対応できる内部が可変なつくり ・10年先、20年先の時代ニーズに柔軟に対応できる建築 ・大きな構造体と内装の変更が可能な仕組み	6	氷見を感じるデザインモチーフや素材の取り入れ ・里海や里山の自然の恵みや産業 ・伝統文化や景観など
3	イベント時の機能は、共有部分の活用で対応 ・パーティ、マルシェなど ・人々の活動が外に見えることで賑わいを創出	7	環境負荷の低減と省エネルギー建築 ・省エネルギーに貢献する建材や設備機器の導入 ・再生可能エネルギーの採用の検討など
4	外部空間の利用で過大な建築計画を抑制 ・テーブルを置く場所が足りなくなったら縁側や広場にテーブルを出す ・キッチンカーステーションによる飲食提供	8	民間との協働によるサービス向上や費用削減策を検討 ・商業空間と公共施設の合築等の事業手法 ・店舗賃料収入などによる維持管理費の軽減 ・サービス向上につながる民間との連携手法

「ひみ文化交流プラザ」の提案

【施設の機能と概念図について】

芸術文化活動を核とし、氷見暮らしの魅力を高め、生活文化を楽しむ憩いや集いの場とあわせた複合施設とし、5つの機能で構成します。

- ①芸術文化
- ②親子の遊び場
- ③大人の学び場
- ④交 流
- ⑤民間提案事業

下配は、5つの機能と屋外空間の広場の機能を含めた概念図です。これらの機能が重なり合い、活力の創出につなげます。



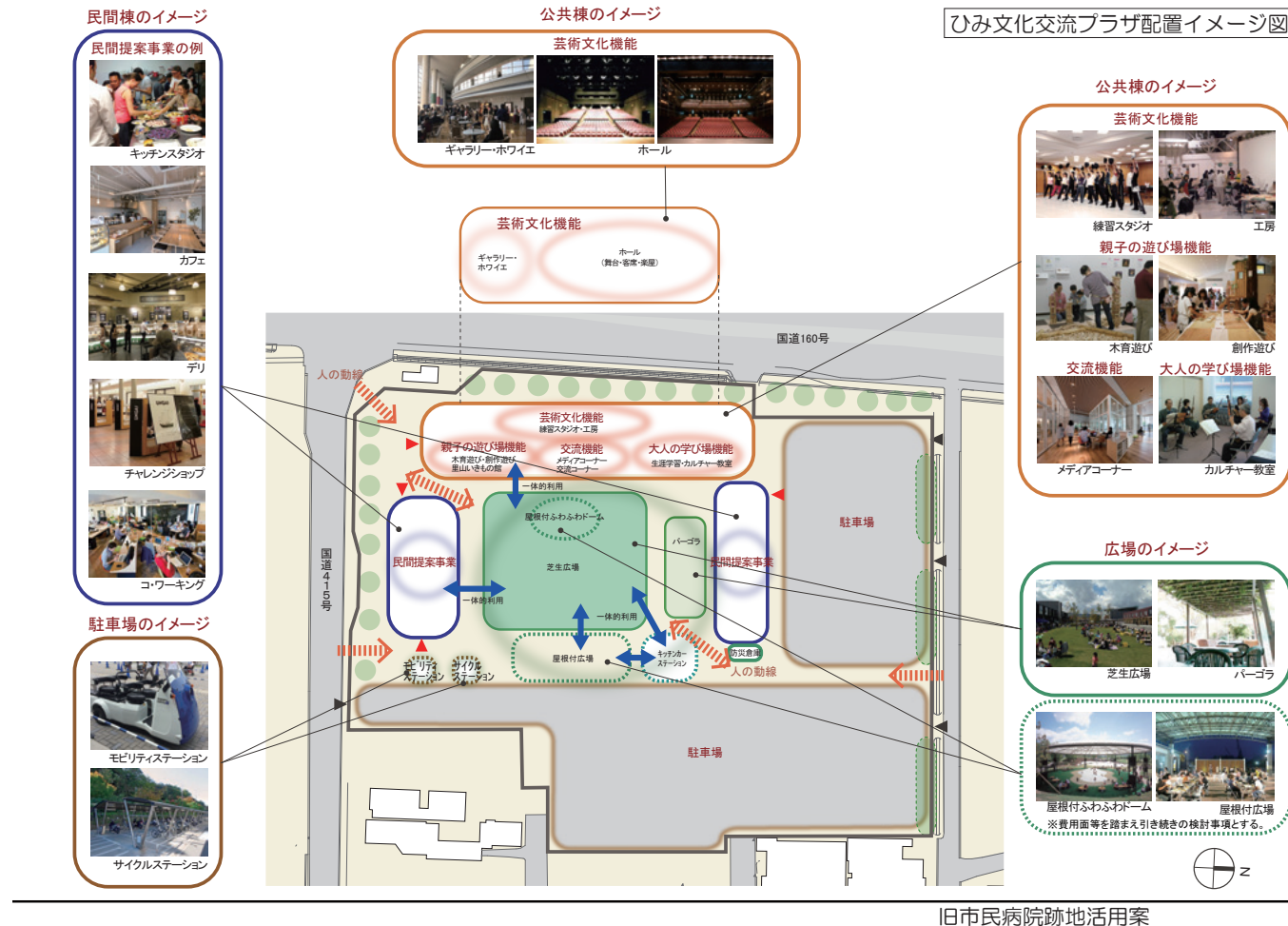
1 「ひみ文化交流プラザ」の提案

旧市民病院跡地は、国道160号と415号の交差点に位置する交通条件を生かした広域的な利用圏を想定し、「文化施設を核とした」まちの顔となる新シンボル」として位置づけ、芸術文化の発信とさまざまな市民の交流と創造の拠点として整備します。

多目的ホール、子どもから大人までが学び交流できる施設で構成し、次の5つの機能を有します。

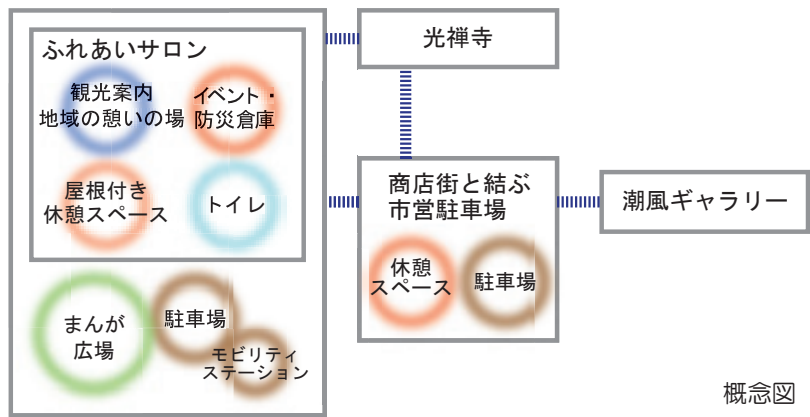
- ①芸術文化…ホール、ギャラリー・ホワイエ（ホールのロビー）、練習スタジオ、工房
 - ②親子の遊び場…未就園児から就園児や就学児まで、子どもと親が一日中楽しめる場とします。
 - ③大人の学び場…市民の生涯学習や、市民活動の場とします。
 - ④交流…「芸術文化」、「食」関連のメディアコーナー、交流コーナーがつながり、くつろげる場とします。
 - ⑤民間提案事業…魅力的な氷見暮らしが感じられる民間事業を誘致し、賑わいと活気を創出します。
- 【広場】
- 敷地の中央に建物に囲まれた芝生広場を設け、多くの人が集える場とします。
- 【公共交通】
- 公共交通である路線バス停留所や、NPOバスの乗降スペースなどを設けます。
- 【駐車場】
- 駐車場は、普通車375台程度、大型バス3台程度を設けます。

4つの公共空地等の利活用の方向性と、漁業文化交流センター、JR氷見駅、比美乃江公園（ひみ番屋街）の活用の方向性を示します



2 「氷見まんが広場」の提案

旧市役所跡地は、商店街や藤子不二雄①先生の生家である光禪寺が隣接しているため、観光客をまちなかに誘い込み、商店街の賑わいを創出し、周辺の観光資源と連携する「まちなか回遊拠点」づくりを行います。



概念図

「まんが広場」

藤子不二雄①先生のまんがキャラクターを生かした遊具や、光禪寺を背景にキャラクターと写真が撮れるベンチ、キャラクターのミニチュアマップなど、藤子不二雄①先生の世界観を感じる広場を整備します。

「ふれあいサロン」

観光案内（ボランティアガイドステーション）、地域の憩いの場、トイレ、屋根付き休憩スペースを設けます。市街地の観光資源を展示するデジタルサイネージ（画面型掲示板）など、市街地観光の回遊拠点として整備します。

また、イベント用器材・テントや物資などの防災備品を収納する倉庫を設置し、イベント開催支援と災害時の備えとします。

「駐車場」

普通車16台と観光バス3台程度、モビリティステーションを回遊の拠点として整備します。

「商店街と結ぶ駐車場」

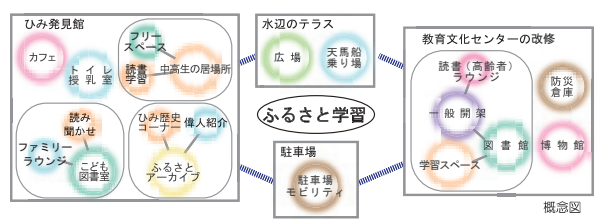
ベンチやパーゴラを設けて休憩スペースとして活用します。どちらの駐車場も、イベント時はマルシェや屋台スペースとして活用します。

3 「ひみ発見館」の提案と教育文化センターの改修

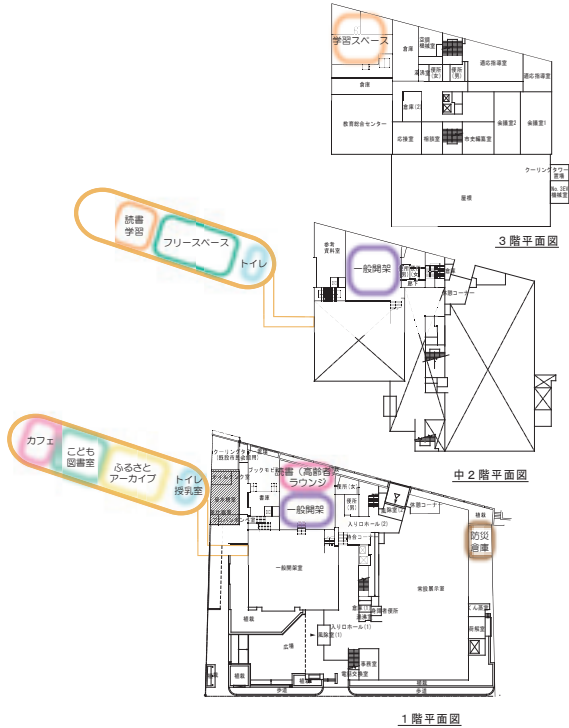
市民会館敷地は、図書館や博物館、朝日山、湊川との近接性を生かし、氷見の「歴史・文化」を再発見できる、交流・憩いの空間づくりを行います。

「ひみ発見館」

1階には、氷見市出身の偉人、湊川を起点としたまちなみ形成史や地域の祭礼行事などの氷見の歴史がわかるコーナーをはじめ、カフェ、子ども図書室、授乳室などを配置します。また、2階には、中高生の居場所となるフリースペースを設けます。



ひみ発見館及び教育文化センター1階、中2階、3階平面図



「水辺のテラス」

湊川の眺望を生かしたテラスを整備し、水と緑の中で読書を楽しむほか、交流できる場を設けます。

「駐車場」

駐車場は、普通車80台程度、観光バス2台程度、モビリティステーションを回遊の拠点として整備します。

「教育文化センターの改修」

一般開架スペースを拡張するとともに、湊川の水と緑を望める静かな読書ラウンジや高齢者の憩いコーナーと、中高生の学習スペースを整備します。

ひみ発見館配置イメージ図



市民会館敷地活用法

氷見まんが広場配置イメージ図



旧市役所跡地活用法